

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195000039		
法人名	有限会社ライジング		
事業所名	グループホームはるる		
所在地	北海道常呂郡訓子府町字穂波67番地33		
自己評価作成日	平成25年12月20日	評価結果市町村受理日	平成26年3月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [/index.php?action_kouhvou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0195000039](http://index.php?action_kouhvou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0195000039)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に唯一のグループホームである為、形式や流れといったものにとらわれることなく、その時その時にあるご家族や入居者さんのニーズに合わせたケアを行っています。するばかりの一方的なケアとならないよう、出来ない所だけを支えながら、ゆったりとした生活環境を築くよう努めています。また、ご家族との外出・外泊等に関し積極的に支援を行い、馴染みの関係を継続できるホームを目指しています。また、職員の配置にはゆとりを持ち、個別ケアや外出支援等が取り組めるようにしています。その為、集団生活でありながら救急時等においてもスムーズな対応が可能となっています。

開設から8年、ベテラン職員も増えて来たため外部の研修のみならず、内部研修(勉強会等)も積極的に取り入れるようにし、職員のさらなる質の向上・自己啓発に取り組んでいます。また、研修を通じて、他施設の職員・他職種との関係の構築を目指し、情報交換が図れる体制を整えています。職員間の関係も良好で、それぞれがお互いのケアを認め合いながら入居者さんのQOL向上を目指し取り組んでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE		
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38		
訪問調査日	平成26年2月6日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人のデイサービスが併設された当事業所は地域唯一のグループホームになっています。平屋建て2ユニットで事務所を挟み両側に利用者が集う食堂兼居間があり、自由に行き来できる造りで、行事等の相互交流がスムーズに行われています。開設時から施設長を中心に職員全員が利用者の尊厳を大切に、地域・自然との触れ合いを持ち、利用者のできない所を支えるケアを基本に、理念の実践に努めています。利用者、職員のほとんどが地元の方で、地域との関係の継続を図りながら地域行事(敬老会、文化祭、収穫感謝祭等)への参加やボランティア、園児との交流を通じて利用者の楽しみ、活力ある暮らしに繋げています。町主催のオレンジサポーター養成講座で施設長が講師を務め、認知症への理解を深める活動に積極的に関わり、安心して暮らせる地域作りに尽力しています。管理者は職場内研修や職員が講師となった勉強会を計画的に充実させ、職員の知識、意欲向上や働きやすい環境整備に力を注いでいます。職員の定着率は高く、経験や人材育成のスキルがそのまま提供するサービスの質や事業所の質の向上に繋がっています。職員のチームワークは良く、日の浅い職員のフォローやお互いの苦手な部分を補うなど、常にサービスのバージョンアップを目指し取り組んでいます。一日を通して利用者職員との会話が弾み、家庭的な明るい雰囲気になっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をユニットのフロア内に掲げ、利用者様・個々の尊厳を保ち地域・自然とのふれあいを持ってるように努めています。	利用者の書いた理念が各フロアの見やすい所に掲示されています。職員は研修を通じて理念を振り返り、尊厳を大切にケアの実践に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しています。また町行事にも、参加するなど地域との交流に努めています。	利用者、職員のほとんどが地元の方で、地域との関係性が築きやすくなっています。地域行事への参加や園児との交流、地域主婦の会による散歩や草取り、読み聞かせなど、ボランティアとしての協力が得られています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、参加者に認知症や感染症予防についての説明などを行うようにしております。また、町主催の認知症講演には、施設長が講演を行い地域の人々へ広めています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2カ月毎に開催し、町職員・町内会長・ボランティア関係者・ご家族・職員・施設長が参加。事業所運営・行事・活動・事例発表・利用状況について発表しています。その際に質疑応答を行い、内容は運営に繁栄させています。	運営推進会議は定期的開催され、利用状況や事故・活動・研修報告を行い、質疑応答等で話し合い、出た意見を運営に反映させています。また、会議を活用してノロウイルスについての研修報告を兼ねた演習を行っています。	詳細な議事録を作成していますが、前回の会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、その経過内容を把握できる工夫と、参加されていない家族が議事録を共有できるよう期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話による確認や訪問・書類提出等により、施設の実績やケアサービスの状況報告等を行っています。相談・助言・指導を受け連携を密にすることでサービスの質の向上に取り組んでいます。	行政とは運営推進会議や地域ケア会議等で情報交換を図ると共に、町主催の認知症講演などの活動を通じて協力関係を築き、認知症への理解を広げています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていません。身体拘束の無いケアに取り組んでいます。	身体拘束については内部研修で共通理解に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。また、職員は利用者の尊厳を大切に、日常業務の中での言葉づかいにも十分な注意を払い、サービス提供に努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常業務の中で、利用者様に対しての言葉使いや身体介護において虐待に該当しないように注意しています。また、研修・勉強会・月1回の会議など、職員間で注意・検討し防止に努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については、講習会・勉強会等で参加して学び、制度も導入されている。又はさようとしている入居者様の支援をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に対し、十分な説明を行い、入所時及び退所時にも安心して頂けるように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に苦情受付窓口をお知らせするとともに玄関内に苦情受付箱を設置し、ご家族や外部の皆様からの意見等聞かせて戴くようにしています。利用者様からは、日常生活の中で職員がお話を聞きご要望・意見を伺うようにしています。ご家族には面会時に管理者・職員でお話を伺うようにしています。	家族の訪問時や運営推進会議、家族会(親睦会)の参加を通じて意見要望を言って貰えるよう心がけると共に、利用者の近況や受診結果、金銭報告等、細やかに報告するよう努め、信頼関係を築いています。毎月ユニット毎ホーム便りで利用者の様子や行事の写真、担当職員からのコメントを添えて情報を伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議や日常業務の中で個々の意見や提案を聞き、取り入れられるものは取り入れるようにしています。	管理者は毎月の会議や日常業務の中で職員の意見や提案を受け止めサービスに反映させています。職員の定着率は高く、経験を活かしたスキルが事業所の質の向上に繋がっています。施設長は職員のストレス発散の工夫をし、働きやすい職場作りに取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新たに経験年数による昇給制度の実施や手当の充実を図っている。また、勤務体制等、職員に聞き取りを行いながら無理のない体制かどうかを確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修の参加は、勤務時間内において参加できるように体制を整えている。また毎月の内部研修で知識の充たを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者研修や捜索訓練等を通じて、他の施設・職種とも交流が図れる様その機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始に至った経緯を踏まえた上で、ご本人に話し掛ける機会を多く持つ様にし、会話の中や、日々の生活の様子を観察しながら、ご本人がどう思っているかを理解出来る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時は、何かとご家族との連絡が増えるので、話す際は何気ない会話の中からでも、ご家族の気持ちを汲み取れる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が、必要としている事には、常に柔軟に対応出来る様心掛けており、要望があればハビリ等、他サービスを利用出来る様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中でも、一緒に出来る事は一緒に行い、ご本人の昔の知恵等伺い、活用したりとお互いに助け合える様にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご本人への思い等に共感し、一緒にご本人を支えて行ける様、報告・連絡・相談を密にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方が多いため、散歩を行いお店や名前を見て、馴染みの場所を懐かしんで頂けるよう支援している。又、理容室や行事を行い、地域の人との交流に努めている。	利用者の多くが地元の方で、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めています。また、知人の来訪は話が広がる大切な機会として支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者に合った歌番組を入れ、互いに話し聞われるよう支援している。又、利用者同士の間に入り支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族がいつでも来所出来るよう、契約終了後も関わりを続けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを汲み取り、出来る限り意向の把握に努めている。	センター方式を活用したアセスメントや利用者と共に暮らす中でのコミュニケーションを情報源として捉え、職員は共有し、出来る限り思いに添えるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、できるだけ情報を集め、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度、スタッフ会議とモニタリングを行い、家族の希望も反映し、介護計画を作成している。	担当職員によるアセスメントを含め、モニタリング、サービス担当者会議を基に本人、家族の希望も盛り込んで現状に即した介護計画を作成しています。サービス内容は業務日誌に添付し、連動した記録になるよう心がけています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践を個別に記録し、職員間で情報を共有し、プランに沿ったケアを実践し、プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診は家族にお願いしているが、家族の状況に応じて柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状況に応じた病院選びや、地域のボランティア・ケアマネとの関わりを持ち、安全で豊かな暮らしを楽しむように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、納得が得られる医療機関を受診している。又、受診できない方は往診を利用している。	事業所所属の看護師により、月1回の身体・精神的なケアを行う事で、より家族の安心感に繋がっています。協力医療機関のクリニック・歯科医からの往診もあり、利用者の健康管理には特に気を配っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、職場の看護職員に相談し対応している。又、訪問看護職員とも情報交換し、適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に病院関係者と、情報交換を行っている。又、治療の終了後、いつでも受け入れ出来るように、相互の関係作りも出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時に供えて、ターミナル研修や勉強会を行っている。又、家族と話し合いを持ち、事業所で出来ることを説明し、理解して頂けるように取り組んでいる。	重度化・終末期ケアに関しては、入居時に家族・利用者に説明しています。重度化した場合は、医療機関に移る選択もありますが、家族・利用者の意向を優先し、看取りを実施できる体制もあります。また定期的に職員研修を開催し、職員の知識の向上にも努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対策委員会を中心に、事故発生時について対応方法を学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力を得て、全職員で年2回の防災実施訓練をしている。又、運営推進会議にて、地域で何が出来るかの、話し合いを行っている。	夜間を想定しての避難訓練を消防署の協力を得て実施しています。運営推進会議では、災害についての話し合いを行い、ハザードマップ・火災時の持ち出し品などの確認もされています。	災害時に備えて利用者と職員が、速やかに避難出来るよう自主訓練の回数を重ね、避難手法を全職員で共有すると共に、地域の方々の協力を得ながら災害時の役割分担などを明確にし、地域住民参加の訓練を実施する事に期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の心に寄り添った、言葉掛けに努めています。又、プライバシーを守り誇りを損ねない様に、配慮した対応をしております。	事業所の理念でもある「個人として尊重し、尊厳を維持しよう」をモットーに、人権や個人のプライバシーについては特に気を配っています。日常のケアに於いて気が付いた時には、職員同士が指摘し合える体制も築いています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご家族からの情報や日々の関わりの中で、入居者様の希望・関心事を把握するようにしています。意思表示が出来ない場合でも、表情や態度から希望を把握するよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々の、日常生活のペースを把握し、希望に添いその人らしく、生活出来るよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度、美容師の方にカットボランティアに在所して頂き、清潔感あるヘアスタイルの維持に努め、更衣の時にも入居者様の意向を取り入れた、服装で過ごせるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を伺い、その利用者の出来る事を尊重し、一緒に調理している。1人ひとりの出来ることを活かし、食事の準備等をお願いしている。	献立に関しては、ユニット毎利用者の意向を取り入れ、カロリー等には配慮した内容になっています。外での食事会やドライブの際にはお弁当やおにぎりを用意する等、おいしく楽しく食事出来るよう工夫を凝らしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態、体調に合わせた食事提供を行っています。水分摂取量に関しても、1人ひとりの水分量をその都度記録し、1日に十分な水分量を確保できるよう、確認しつつ提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている利用者に関しては、声掛け・見守り等を行っています。介助の必要な利用者に関しては、口腔保清の支援に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを確認し、トイレの声掛けや個人のD-1シートを活用し、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用しながら、利用者寄り添い、さりげなくトイレ誘導の声かけをしています。現在は、昼夜を問わず自立して排泄できる利用者が多く、安全面やプライバシーに配慮したケアに努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や、1日の水分量の充実を図り、散歩や軽い運動等をし、便秘予防につなげています。又、必要に応じて乳飲料や乳酸菌飲料を提供し、腸内環境の改善に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間は午後からとなっているが、希望がある時にはその都度対応している。入浴拒否がある時は、職員を変える等対応し、無理強いにはさせぬよう努めている。	入浴回数は週2～3回を基本に利用者のペースに合わせて工夫しています。併設されているデイサービスの浴場を提供する事により、利用者同士がコミュニケーションを図ったり、気分転換の場にもなっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活リズムに合わせて、起床・就寝と対応している。又、冬には乾燥対策として、居室内に加湿器を設置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに閉じ、いつでも確認できるようにしている。処方箋の変更があった場合、連絡ノートを使い全職員に通知している。又、誤薬対策として誤薬マニュアルを作成し、会議ごとに確認し、服薬の際には2名の職員で、確認作業を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭き等、負担にならない程度で行って頂いている。又、月ごとに行事を計画し、レクリエーション等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	紅葉や花見物など計画し、外出を行っている。又、希望がある場合には、出来る限り対応している。	温暖な時期には、日常的に近所を散歩する等して利用者の体力維持とリフレッシュに努めています。年に数回ドライブを企画したり、菊まつりなどの行事への参加を多く設ける事で利用者の気分転換を図っています。また買い物や自宅への外出は、職員の同行・家族の協力を得ながら対応しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に出掛け、購入の手助けを行っています。又、ご本人の希望があれば、ご家族の同意のもと、少額を本人で管理して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了承を得たうえで、希望時以外にも、電話や手紙のやり取りが出来るよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせて、模様替えを行っています。又、行事の写真等を掲載しております。	共有のリビングは暖かく家庭的な空間であり、利用者が落ち着いて過ごしています。壁には行事の写真が多く飾られ、楽しい雰囲気が感じられます。また共用の洗面所には車椅子でも利用できる高さの洗面台が設けられ、使いやすさに工夫がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室には、ソファとテーブルが置かれ、配置等も気の合う利用者同士が、座って寛げるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具等を、個々の状態に合わせた安全面を考慮したうえで配置し、又、壁などの空間にも、趣味や思い出の物が飾られ、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫させて頂いています。	各居室には、馴染みの家具や所縁の品々が持ち込まれ、利用者本人が居心地良くなるよう配慮されています。また全室にクローゼット・スプリンクラーが設置されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上にテーブルやソファを配置する事で、歩行が不安定な方も安心して過ごせるよう工夫している。また、カレンダーの設置・写真や創作品を置くなどして安心につながる様になっている。		